



岸本周平
Kishimoto Shuhei
中央大学客員教授

<http://www.shuhei-k.jp>

<http://blog.goo.ne.jp/shu0712>

歴史的な 転換点に生きる

今回の参議院選挙を戦っていて、これまでとは有権者の皆さんの反応が全く違うのに驚かされました。落選以来の選挙は、すべて地方議会の選挙であったからかもしれませんが、今回は、有権者お一人お一人の息遣いが伝わってくるような感じなのです。「頑張れよ!」「今度だけは、逆転してよ!」老いも若きも、振り絞るような声をかけてくれます。

振り返れば、2年前、2大政党の下、政権交代の可能な政治を目指して立候補。小泉旋風の逆風にもかかわらず、1カ月の選挙活動で7万8,621票を獲得しましたが、惜敗。以来、浪人生活を続けながら、駅やスーパーマーケットの駐車場を職場に、日々街頭演説によって政策を訴えてきました。



官庁やトヨタのような大企業に勤めていた恵まれた環境から、180度異なる立場に立たされ、ようやく一人前の人間に少しは成長できそうです。人の心の温かさが肌でわかるようになりました。ずいぶんと涙もろくなり、何かというと感激ばかりしています。この2年間は、私にとって本当に必要な時間でした。しかも、次の総選挙では、戦後の歴史始まって以来、2大政党政治の下、選挙で政権交代が実現するのです。そのような歴史的な瞬間に、当事者として参画できることに身の引き締まる思いです。

6,400万円の支払い記録が宙に浮くような年金のずさんな管理や、グリーンピア南紀を122億円もの年金財源で造って、無料で中国の企業に渡すような無駄遣いに有権者は怒っていました。バンソーコを貼った大臣のお粗末な政治資金の不透明さも民主党の躍進を後押ししました。さらに、和歌山県は、すでに17年連続で土地の値段が下がり続けています。昨年、東京や大阪のみならず、少しは景気が上向いて、地価が上がっている地域もある中で、置いてけぼりをくっているという意識が強いのです。商店街はシャッター通りで、若者の働く場所がありません。「生活が第一」というキャッチコピーが地方の有権者には心に響いたはず。

今の自民党は大げさに言えば、幕末の「徳川幕府」そのものです。いかにも時代遅れで自浄能力を失っています。それで当然なのです。どんなに立派な組織も権力を

長く持てば腐敗し墮落します。それを防ぐ知恵が政権交代なのです。23年間、「徳川幕府」の中において、内部からの改革に絶望し、新天地を求めた私には、何としても政権交代を実現することが天命だと思えてなりません。そのために、すべてを捨て、ふるさとに帰ってきたのです。

まだまだ数少ない、だからこそ熱い思いの支援者の皆さんと一緒に、歴史を変えるその瞬間に立ち向かえることの幸福を噛みしめています。読者の皆さん!どうか、私と一緒に歴史を変える戦いに参加してください。みんなで、むしろ旗を上げようではありませんか!

